

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	Eバイクを使った鬼無里観光まちづくり事業
事業主体 (連絡先)	鬼無里観光振興会 TEL026-256-3188
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大 (ア特色ある観光地づくり)
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,443,642 円 (うち支援金: 1,023,000 円)

事業内容

個人やグループなどの少人数の観光客に対する利便性を高めるためにeバイクを導入し、レンタサイクル事業を開始した。

また、鬼女紅葉伝説ゆかりの地を巡るモデルコースをモニターイベントやワークショップでの検討を経て設定をした。



【活動の様子】

【目標・ねらい】

- ①まちづくり実践者の増加
- ②交流人口の増加

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

①参加者からは自転車使用者の視点で今まで知らなかった地域の良さ(景観スポット)等を発見することができたとの意見が寄せられた。また家族やサイクリング仲間と伝えていただくことで協力者が増えた。

②ワークショップ、モニターイベントはコロナ禍のため大人数での開催ができず、またレンタサイクルを利用する観光客との交流人口も微増であった。

※自己評価【B】

【理由】

新たな観光ツール、観光資源としてハードについては計画どおりに整備ができたが、レンタル事業については利用者が伸びなかった

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

開設したサイクリングコースをPRするため、サイクリングマップを作成する。また、同じく鬼女紅葉伝説のある戸隠地区内のコースづくりをしていく。

また、レンタル用eバイクの台数を増やし、さらに家族や少人数単位で利用がしやすいようにしていく。

将来的には、サイクリング等のイベントを地区内の宿泊施設等と連携して開催し、グリーンシーズンにおける交流人口の増加につなげていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	戸隠地区ユニバーサルツーリズム推進事業 2021
事業主体 (連絡先)	一般社団法人戸隠観光協会 事務局 026-254-2888
事業区分	産業振興、雇用拡大に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	4,010,210 円 (うち支援金 : 2,844,000 円)

事業内容

様々な理由で旅行を楽しむ事が困難な、いわゆる旅行弱者(障害者、言語の面で外国人)の旅行(ユニバーサルツーリズム)に対し、英語版のHP制作や通訳ガイド育成を実施。また、環境への負荷軽減を目的とし、Eバイクの普及及び中心観光地以外の魅力的なスポットを開発した。

- ・英語案内板の設置 R3/11/15
- ・Eバイクルート開発 R3/7/7、8/30、8/31、10/28
- ・通訳ガイド育成 R3/7/27、9/7
- ・英語版HP公開 R4/3/1



【マップ制作】

【目標・ねらい】

- ① 外国人旅行者への案内拡大
- ② オーバーツーリズム解消
- ③ 脱炭素に向けたEバイク普及
- ④ 通訳ガイドの育成

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①英語版HPの閲覧数3/2現在206。更なるPRを行う。
- ②中心観光地である、中社・宝光社地区以南の里山のルー開拓を行い新たな立ち寄りスポットを構築できた。
- ③Eバイク本体とマップの制作により、環境に配慮したコンテンツの提供を実現できた。地域より、試乗の要望も出てきており対応していきたい。
- ④通訳ガイドを3名育成したことで、戸隠の文化(忍者、蕎麦など)・歴史に関心のある外国人旅行者への体験コンテンツの構築ができた。

※自己評価【A】

【理由】

・各事業の実施により、戸隠の更なる魅力の発信・長期滞在実現・環境に配慮した観光への取り組みへの一歩を踏み出せた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

・アクティビティな外国人旅行者の誘致を、戸隠地域として行って行きたい。その為に、Eバイクで田園風景やそば畑が広がる里山サイクリングツアーなどを実施し、神社・そばといった中心観光地以外の魅力を体験してもらう。また、インバウンド向け旅行会社と連携し、育成した通訳ガイドを使った企画ツアーを実施し長期滞在を実現させたい。5年後にはEバイクを15台程度に増やし、戸隠オリジナルボトルの普及等を含め、脱炭素に向けた環境への取り組みを強化したい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	ジビエ体験等を通じた移住促進事業
事業主体 (連絡先)	(公社)長野青年会議所 理事長 百瀬衛 担当:地域経済委員会 増田年晴
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 (ア)特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	2801530 円 (うち支援金: 2005000 円)

事業内容

四方を山々に囲まれた長野では、鳥獣被害の軽減を目的とした狩猟が全国的に見ても盛んに行なわれています。そこで食材としての価値が改めて見直され、その高い栄養価が再認識されている「ジビエ」に着目し、県内外の方々にジビエ料理に触れてもらうことで、長野には魅力的な食文化があることを発信します。首都圏からのアクセスも良好な位置関係にあり、自然豊かな長野の魅力を、ジビエ料理体験を通じて、様々な角度から、新しいライフスタイルの提案を県内外に発信し、関係・交流人口の増加につなげます。



ジビエ料理体験

【目標・ねらい】

- ①二拠点生活及び移住促進
- ②関係人口、交流人口の増加
- ③地産地消の促進
- ④

事業効果

- ・ジビエおやき、ジビエたこ焼き、ローストハーブジビエ、ジビエカレーの計4種類、600食の料理体験を開催しました。事前段階で7割程が予約、当日体験も好評で、全て完売し好評いただきました。
- ・来場者の多くがジビエという言葉は知っているが、実際に食べた事は無い。どこで食べれるのか分からない。という方が多く、店舗スタッフとの交流を通じて、地産地消の促進も測られました。
- ・ジビエ体験後、近隣でジビエ肉を販売したところ、こちらも完売となりました。ジビエ肉を県外にいる友人、お世話になった方に配送される方もおり、一定の関係人口増加が図られました。
- ・WEBサイトやSNSによる広報活動及び、マスメディアやプレスリリースを多数おこなったことにより、県内外の家族連れ、若者が多く体験され、同じく関係人口、交流人口の増進が図られました。

※自己評価【 B 】

【理由】コロナ禍ということもあり、県外からの誘客が想像を超えるほどではありませんでした。しかし県内外の方々に、地産地消の促進、長野の魅力を発信し、関係・交流人口の増加及び、郷土愛を醸成することに一定の効果があつたのではないかと考えます。

今後の取り組み

当該事業を一過性にする事なく、継続的に関係人口、交流人口の増加を展開していく必要があります。今後の取り組みとしては、今回ご参加いただいた飲食店様には、引き続きジビエ料理を提供していただく、またはジビエによる創作料理を新しくメニューに加えるなど、観光客をはじめとする交流・関係人口が訪れた際の楽しみに一つとして、ジビエ料理の提供をご協力いただいております。また、若者の有害鳥獣駆除免許の取得(罟猟)が年々増えていることから、今回のジビエ料理体験を通して、若者の自然への回帰及び二拠点生活の提案、長野の魅力を発信する啓蒙活動事業を来年度以降も当団体にて検討、実践していきます。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあつたが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	外国人旅行客向けの観光ルート開拓事業
事業主体 (連絡先)	善光寺表参道イルミネーション実行委員会 (長野市観光振興課インバウンド・国際室：026-224-8316)
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大に関する事業 ア特色ある観光地づくり (8)その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,360,880 円 (うち支援金：1,088,000 円)

事業内容

入込客数の落ちる冬期間において、白馬地域から善光寺・松代地区へのインバウンド誘客を図るため、下記事業を実施した。

- ・モニターバスツアーの開催：12月25日、26日
計15名参加 ※灯明まつり期間中は中止
- ・新型コロナウイルス感染症対策兼おもてなし研修会の開催：11月12日 長野市松代支所 約20名参加
- ・おもてなしコンシェルジュの設置：12月25日、26日
- ・ファミトリップの実施：9月22日



【モニターバスツアーの様子】

事業効果

- ① 新型コロナウイルス感染拡大により灯明まつり期間中のツアーは催行できなかったものの、イルミネーション期間中にモニターツアーを開催し、今後商品化を行ううえでの課題を抽出できた。
また、ファミトリップを開催したことで、インバウンドを専門に扱う旅行会社と令和5年度からの商品化に向けて協議を進めることができた。
- ② 町内住民や観光関連団体と研修会を開催し、インバウンド受入れ対策について具体的に議論できた。また、感染症対策を講じたバスツアーを実践し、withコロナ時代の「新たな観光様式」に対応する誘客の在り方を検討できた。

【目標・ねらい】

- ①周遊ルートの開拓
- ②おもてなし機運の醸成と感染症対策の啓発・実践

※自己評価 【A】

【理由】

- ・白馬地域と善光寺・松代地域を繋ぐツアー商品の造成に向け、課題の抽出と旅行会社との協議を進めることができた。
- ・with コロナ時代の「新たな観光様式」に対応する誘客の在り方を検討できた。

今後の取り組み

今年度のモニターで抽出した課題を踏まえ、商品を更にブラッシュアップさせ、令和4年度に再度検証を行う。また、継続的に実施することで、安定的に誘客が見込めるかについても検証する。また、今年度実施した際の記録を、広報等で使用し今後の誘客に活用する。

引き続き、町内でのインバウンド受入れの機運醸成と受入れ体制の確立に取り組むとともに、商品化について旅行会社と協議を進め、令和5年度からの一般商品化を目指す。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	臥竜公園一帯を活用したアウトドアイベントによる防災・観光・定住等の複合的 事業
事業主体 (連絡先)	アウトドアライフスタイル推進協議会 090-1486-3460
事業区分 重点テーマ	産業振興、雇用拡大 (ア 特色ある観光地づくり) 令和元年台風19号災害からの復興の推進
事業タイプ	ソフト
総事業費	7,967,825 円 (うち支援金 : 6,282,000 円)

事業内容

先般の台風19号の際は、千曲川の越水、八木沢川の内水氾濫などが発生し、須坂市も家屋や農地、道路など公共施設などにも甚大な被害を受けた。その際には信州須坂ハーフマラソンの中止など観光面の影響もあり、現在は「one for All, all for One」「オール須坂+α」をスローガンに、以下の取り組みを実施した。

【本年度の取り組み】

- 1, アウトドアを活かした地域防災への具体的アクションとして防災キャンプを開催&動画作成
- 2, 市民に親しまれている「臥竜公園百々川緑地」で復興への旗印になり、「オール須坂+α」を促進するために、アウトドアフェスティバルを開催。
- 3, イベント前後での出展者への誘客と参加者との繋がりをつくため、つながる須坂フェスを開催
- 4, 参加者への事前・事後でのコロナ対策等の連絡方法不足に対するコロナ対応強化として公式 LINE 活用

1, 防災フェス&キャンプ

日時：令和3年9月25・26日 10時～16時

場所：臥竜公園百々川緑地

来場：300名

【コンテンツ】

<フェス部分>

ペーパーログ作り体験

空き缶アルコールランプ作り体験

火起こし体験

牛乳パックでカトラリー作り体験

ロープワーク体験

AED講習会

段ボール寝床体験

テント&タープはり体験

防災関連の展示

【1, 防災キャンプ】※防災動画より



ペーパー
ログ作り



空き缶ア
ルコール
ストーブ



火起こし



牛乳パッ
クでカト
ラリー



ロープワ
ーク



AED講習



段ボール
寝床



テント張
り

(別記様式第12号) (第3の8関係)

<キャンプ部分>

防災食体験

ヨガ体験

防災リテラシー向上

【キャンプ収入】

防災キャンプ：38,500円

2, アウトドアフェス

日時：令和3年10月30・31日 10時～16時

場所：臥竜公園百々川緑地

来場：4000名

【コンテンツ】

1、GO! Outdoorゾーン・・・アウトドア関連用品等の展示・販売ゾーン。

2、Fun Lifeゾーン・・・ライフスタイル提案ゾーン

3、Local Marcheゾーン・・・地域の店舗での販売&各種クラフト・ワークショップが体験できるゾーン。

4、Food Circusゾーン・・・移動販売など買い物をして頂けるゾーン。

5、Local Activityゾーン・・・観光事業者さんによるアクティビティ体験ができるゾーン。

6、Free Marketゾーン・・・フリーマーケットゾーン

7、観光PRゾーン・・・須坂市観光協会さん・峰の高原観光協会さんなどのPRゾーン。

8、防災ワークショップゾーン・・・アウトドア防災を体験できるゾーン

※MeetUp 須坂は募集するも、参加者が集まらず開催せず。

【出店ブース】

協賛企業 (1~6計)：36社、観光・行政ブース：2団体、フリマブースのべ22店舗

【協賛・出店費】

協賛企業 BRONZE：374,000円、飲食企業：176,550円、協賛企業一般176,000円、その他：66,000円、フリーマーケット：36,300円 計790,350円 (内11,000円未入金)

3, つながる須坂フェス

日時：令和3年9月17日～令和4年1月31日

参加者数：74名

【コンテンツ】

LINEのショップカードを活用したオンラインスタンプラリー

4, 公式LINE活用



ヨガ体験



防災リテラシー講習

【2, アウトドア】



全景



スポンサー&フリマ

連絡手段としてのLINEの登録促進

事業効果

- ◆昨年度を大幅に超える来場者：4300名
交流人口約4300名 日帰り旅行費用が1名約1.6万円、
宿泊を伴うと5.7万円(観光庁)。想定経済効果は
約5500万円。
- ◆アウトドアのテクニックを活用した、防災への具体的
なアクションを提示でき、地域防災力の向上に繋がった。
- ◆市民参加型のイベントで、地域が一体となり、
復興の後押しになった。
- ◆臥竜公園一带の認知度を高め、多くの誘客効果に
つながった
- ◆イベントを通じて集まった参加者が臥竜公園・百々川
の魅力を体感し、地元の方と交流してもらったことで、
交流人口が増加した。また再訪へのきっかけ作りがで
きた。



アウトドア体験



SUP体験

【目標・ねらい】

- ① 交流人口の増加
- ② 災害からの復興支援
- ③ 防災意識向上
- ④ 波及効果最大化

※自己評価【B】

予想を超える交流人口を生み出すことができ、出展者含め経済活動の活性化につながった。百々川緑地での他事業者によるイベントも開催されるなど、利用促進につながった。公式LINEを活用したスタンプラリー企画は、参加者への認知不足により、当初予定していた効果を生み出せなかった。須坂市民の参加が想定より少ないので、次年度はより市民とともに作り上げるイベントにしたい。

今後の取り組み

- 1、復興に向け、変わらず須坂市の魅力発信、交流人口の増加を図る
- 2、他市内のイベント等との連携
- 3、集客コンテンツの増加
- 4、市内の方々への認知活動の継続とより市民の方とともに作り上げるイベントに

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	地域密着型交通システム（シェアサイクル）の構築支援事業
事業主体 (連絡先)	千曲市 経済部 観光交流課 026-273-1111 (内線 3293)
事業区分	(6) 産業振興、雇用拡大 (ア 特色ある観光地づくり)
事業タイプ	ソフト
総事業費	6,000,000 円 (うち支援金 : 4,324,000 円)

事業内容

全国でも導入例が増えているシェアサイクルについて、需要の把握や効率的な運営方法の検討を行った。

自転車の活用は健康増進や環境負荷低減といった効果が見込まれ、地域を周遊するツールの一つとしての可能性も高いことから、当事業を実施した。

令和3年7月から12月下旬の約半年間、シェアサイクル事業に取り組み、利用促進のためのPR活動や、地域の住民・団体と連携したイベント等の実施、ゼロカーボンへの市民意識向上のための啓発活動にも努めた。

また同時期に同事業を実施した上田市とも、毎月の定例会により意見交換・情報共有を行った。



【ボートに並んだシェアサイクル】

【目標・ねらい】

- ①シェアサイクルの本格導入を見据えた需要把握
- ②ゼロカーボン推進に資する自転車利用の促進
- ③自転車活用による地域活性化・QOLの向上
- ④しなの鉄道沿線地域（上田市）との連携

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

約半年間の事業において、シェアサイクルの利用者は939人、利用回数は1,353回であった。

また社会実験中に実施した利用者アンケートでは、シェアサイクルがなかった場合の交通手段はマイカーと回答した方が36%であったことから、自動車からの乗換需要があったことが確認できた。全体評価では、とても満足、まあ満足、との回答が75%であった。

市民アンケートでは、自転車利用によるメリットは？との設問に対し、環境にやさしい、観光に便利、との回答がともに60%であった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

市民アンケートで当事業の認知度が低かったことから、まず利用促進を図り、多くの市民・観光客に利用してもらうことが必要。また要望のあったサイクルポートの増設やシェアサイクルの増台なども実施し、利用環境の整備も進めていく予定。

ゼロカーボンに向けては、再生可能エネルギーを利用して電動アシスト自転車のバッテリーを充電するなど、取組を検討し推進する。また市民意識向上のための啓発活動にも力を入れることが重要である。

引き続き上田市とも連携して事業に取り組む予定であり、日本遺産や千曲川サイクリングロードなどの観光資源を活用した企画など、またしなの鉄道沿線市町村との広域的な取組も実施していきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある

※自己評価【 B 】

【理由】社会実験の事業効果として、一定程度の需要が把握できたこと、運営面での課題等が確認できたことなどは成果であった。

ゼロカーボンに向けた取組については、一方的な啓発等にとどまり、検証可能な効果までは得られなかった。